

荒川流域防災住民ネットワーク

キーワード 誰も置き去りにしない/住民先行・行政後追い/自助・共助・公助/共有体験と相互理解

活動の目的・目標

1. 被害が想定される荒川流域住民（関係者）が、自治体の枠をこえて当事者の立場でつながり、自助・共助・公助の協働の在るべき具体像を構築し、問題解決を目指す。
2. 「誰も置き去りにしない＝犠牲者を出さない」の視点で、要支援者の課題を総合力で改善する。
3. 先行・既存の防災ネットワーク（団体）や行政との連携により相乗効果および世論形成を図り、全国の流域関係者との相互協力、情報交換のネットワークを形成する。

活動の対象者 住民、流域関係者

活動内容

【発足の経緯と概要】

2019年10月の台風19号では、荒川において観測史上最も高い水位を観測し、板橋区では堤防決壊寸前にまで至ったことをきっかけとし、「流域」という環境での共有課題の認識を阻害する「自治体の縦割り・政策の線引き」をこえ、住民ならびに関係者が、課題を共有して話し合い、知恵と力を出し合って問題の解決を目指すネットワークとして立ち上げた。

以下に示すように、板橋区を先駆けとし、各流域自治体での年1回の集いの企画・開催をきっかけとした各地でのネットワークづくりを続けている。

板橋区以外の自治体関係者との協働に際しては、開催の前年度のうちに板橋区の事務局が、開催地の中心者となりうる関係者を訪問し、顔合わせを行った上で実行委員会を組織し、月に1回の会議および事務局での会議を重ねて、当日の目的や内容を作り上げている。実行委員会には、開催地の関係者はもちろん、板橋や前回の開催地の住民も引き続き関わりながら、自治体内外のつながりが、開催に向けた動きやその後の動きを通して作られている。外部からの働きかけによる協働は困難もあるが、開催地の住民の中で「共同代表」として数人が立ち、個人の責任や決定ではなく、誰もが当事者として意見を交わしながら、取り組みを進めることを大切にしている。

「住民先行・行政後追い」の考え方をもち、住民同士でのつながりや取り組みから現場の課題と解決策を提示しながら、それを行政が支援し、関わっていく自助、共助、公助のあり方の実現を目指している。

活動内容

第2回 荒川流域防災住民ネットワーク 2022.11.20

※現代の高度多様化によって「風水害」の被害は防災・減災の大きな可能性がある!このことを私たちに関心がかけてくれる。 ※風水害は限りなく人間の意思、知恵、行動によって防災・減災が図られていくことを認識する必要があるのでは

目的 誰も置き去りにしない(犠牲者を出さない)・されない(犠牲者にならない)仕組みと地域づくり

主題 早期避難 (予測可能性の高い風水害) タイムライン(コミュニティ)

今日の開催趣旨(狙い)とプログラム

自助:当事者が「助けが必要です!」と声をあげること
共助:その声に応じて「私たちにできることをやろう」と動く町づくり
公助:自助と共助をシステムと制度で支え、継続していくこと

自助(当事者が...) 共助(地域が...) 公助(行政が...)

誰も犠牲者を出さない 早期避難

※「自助」「共助」「公助」と連携・協力して取り組む

プログラム

午前部

- まずは自然の素顔を知る
巻みと災害の源(荒川の実態)をDVDで知ろう。
- 被災体験の事例に学ぶ
その1 岡山被災体験
その2 東和山被災体験
- 開催会場(地域の取り組み・浸水7m地域の現状)
- 創観劇「てるのあめ」(当事者からの思いを表演)
- 会場展示(社会資源の活用・連携)

午後部

- 分科会
① 避難場所の活用を改善し、早期避難を実現!
② あなたの家の防災進捗は進んでいますか?各エリア地区防災計画の現状を共有
③ 避難場所の確保-STEPなどがわかる事前広域避難訓練に学ぶ
④ 外国にルーツがある人たちの現状を考える。居住実態や自治体・民間の支援は
⑤ それぞれの不安(ペット・乳幼児がいるなど)をまずは共有しましょう。
- 親子で楽しく学ぶ
① 楽しく体験もシミュレーションで学習をしよう!
- そしてパネルディスカッション
・分科会のまとめと共有 ・参加者からの感想や発言 ・次回は何かめ合う

第3回(2023)そして全国大会に向けて

(第2回荒川流域防災住民ネットワーク 概念図:自助、共助、公助のあり方が示されている)

荒川流域防災住民ネットワークとは

荒川流域防災住民ネットワーク 運営委員長 SDOs いたばし ネットワーク 理事 佐藤 隆

1. 荒川流域防災住民ネットワーク発足の背景

地球温暖化に伴う気候変動の影響により、洪水や土砂災害は、毎年のように発生しています。 2019年10月の台風19号では荒川において観測史上最も高い水位を記録し、板橋区の流域では駆動決壊寸前まで迫りました。板橋区には、荒川利根を想定した遊園地という地域課題あることに気が付き、区内で遊園地や学習会を行いました。これは板橋区だけでなく、荒川流域の住民共通の課題であり、流域住民が協力していく事が重要ではないか」という思いに至りました。2021年、荒川流域の住民や関係者が自治体の枠を超えて当事者の立場でつながり、知恵と力を出し合って、具体的に課題の解決を目指していく「荒川流域防災住民ネットワーク」を立ち上げました。

2. 荒川流域防災住民ネットワークのあゆみ

第1回 2021年11月21日
板橋区高島平区民館で開催

みんなで作る パーティクルもあるかな
みんなで語り
防災の取り組み事例
防災アンサー 提供
課題 自治体を超えて住民によるネットワークづくり
みんなでワークショップ

「誰も置き去りにしないまちづくりとは?」
大きな水害で被害者になる可能性のある方が減るべくよい社会とは?
キーワードは「すみません」ではなく「ありがとう」と「あと100人作ろうよ」。

第2回 2022年11月20日
板橋区立舟渡小学校で開催

地域で体験!「荒川流域をつなぐ。影響・変化」
ワークショップ「被災体験を共有し、早期避難の実現へ向けよう」
演劇「デジタル遊園地」
パネルディスカッション「早期避難の実現」

多様性を知る一歩を踏み出すには足らないし、知らないことではない。
日頃から、学び、情報を共有し、他の足る個性をつくり、つながりをつくること、いざ避難という時に活かせる!

第3回 2023年11月19日
北区立浮間中学校で開催

「誰かが居る所にみんなの居る」
必要なのは「自分」
自分自身が居る場所から居る場所
ワールドカフェ 大問で荒川がある
同じ地域に居る防災住民ネットワークづくりに向けた意見交換・親子体験コーナー、展示

みんなで作るための方法を考えるワークショップから、発想
日頃から、発想し、声をかける。協力をする。数回飲み会しよう!
避難時のイベント・お祭り カラオケ大会 パーベニュー-1
親子で防災シミュレーション マンション? 燃え上る、実演映画!

第4回 2024年12月8日
東京都立大学で開催

一歩か二歩か三歩か
一歩か二歩か三歩か
できることをできるだけ
どんな気づきが生まれるでしょう!

開催にあたり、月1回実行委員会を開催しています
学生も、先生も、新しい人も、人生の初心者も、ベテランも、みんなが同じ立場で参加しています

(第3回までのネットワークのあゆみのまとめ:第4回にて配布)

3. 荒川流域防災住民ネットワークの目標

- 被害が想定される荒川流域住民及び関係者がつながり 課題解決を目指します
- ネットワークによる相互協力をつくります
- 先生・民間の地域づくりを支援します
- 自助・共助・公助の在り方を見直し、協働の在るべき具体像を構築します
- 「誰も置き去りにしない」という観点で支援者の実態に対する認識を地域の総合力で改善します
- 先行・既存の防災ネットワーク(団体)や行政との連携により相互連携及び厚み形成を図ります
- 災害発生時の不測性に対応するためのネットワーク機能の定着を目標とします

目標に向かってこれからはつながっていきましょう!

活動内容

【板橋区（第1回、第2回）での開催とその後】

2021年11月21日に第1回、2022年11月20日に第2回を板橋区で開催した。講演や取り組み事例の共有、ワークショップなどを行った。板橋区では、その後災害時の共助について関係者がつながり話し合うネットワークが立ち上がり、定例会で意見を交換しながら、各所への働きかけの方法や個別避難計画作成の推進、地域ごとのサポート隊の結成等に向けて動いている。



(第1回の様子)



(第2回の様子)

【北区（第3回）での開催とその後】

2023年11月19日に開催し、自力避難が困難な人々からの問題提起やみんなで助かる方法を考えるワールドカフェなどが行われ、多様な意見が出された。その後、LINEグループでの情報交換や月1回の定例会を重ね、荒川の氾濫時に想定されるリスクの取りまとめや避難等に関する住民の意識に関するアンケートを行い、ネットワークでの話し合いの成果を区議会議員へ届けるなど、活動の成果を次につなげる動きがとられている。



(第3回の様子：加藤教授、山本教授は第1回から継続して関わっており、加藤教授には第4回までにわたり基調講演を依頼している)

活動内容

【荒川区（第4回）での開催】

2024年12月8日に開催し、中学校防災部の活動報告や、多様な参加団体による展示・体験コーナー、参加者が感じる課題の解決策を共に考えるグループワークが行われた。共同代表・事務局には、区議会議員や社会福祉協議会の職員、会場となった東京都立大学の教員など、様々な協力があった。以後、コミュニティ・タイムラインの作成などを目指して、具体的な取り組みを検討していく予定である。

現在、来年度の第5回の足立区開催に向けても、準備会を進めている。



(第4回：グループワーク)



(第4回：全体の様子)

活動の特徴

1. ネットワーク全体の事務局が伴走しながらも、開催地の住民を中心に、地域ごとの状況に合った内容を重視している点
2. 「誰も置き去りにしない」というテーマを一貫してもち、課題を抱える当事者が参加しながら、要支援者の現状や避難について共に考えることを大切にしている点
3. 各開催地で、開催をきっかけとして、その後のつながりや活動への展開、行政との協働を試みている点

参加者の声・感想

まずは自助が大事、そして周りにも気を配ること、自分の安全は周りの人のおかげだという意識を持つことが大事だと思った。

福祉関係者・議員・地域住民花の話し合いができ、それぞれが感じていること等を共有できて非常に良かった。

多様な立場の多様な視点で課題を捉え、流域を通じ多くの力が結集できることを感じた。

団体・組織情報

【団体・組織名】 荒川流域防災住民ネットワーク

【設立年】 2021年

【所在地】 東京都板橋区板橋3-63-5

【団体概要】

荒川流域における自治体をこえた住民・関係者のネットワークづくりを通して、誰も置き去りにしない防災のあり方について考える団体

【URL】 <https://www.facebook.com/share/5r436RMQw3gJVEJV/?mibextid=wwXlfr>

担当者情報

【担当者名】 上岡稀生子

【所属】 荒川流域防災住民ネットワーク事務局

【Eメール】 rtjkrmm0728@gmail.com